



<1960年代の西戸崎油槽所の正門 昭和>

今回はシェル石油(株)の西戸崎油槽所になる以前のライジングサン時代の製油所建設作業中に起こった事故とその事故で犠牲になられた方を悼み今もなお語り継がれ行われている「慰霊祭」についてお伝えしたいと思います。また私ごとで恐縮ですが、西戸崎で過ごした筆者の小学校3年までの思い出をつづらせて頂きます。



<ライジングサン石油(株)西戸崎製油所 明治>

上記の写真は明治時代のライジングサン石油(株)西戸崎製油所です。この製油所は

建設工事の際に9名の方の尊い犠牲のもとで完成されました。今からその建設事故とそれに纏わる「慰霊祭」について記載致します。

<製油所建設中の事故と慰霊祭>

明治41年6月に西戸崎製油所の建設工事が起工され、工事は順調に進み大半が終わっていましたが、明治42年2月5日(1909年2月5日)9号タンクの水張り検査中に突然タンクが破裂し、工事関係者9名の方々が亡くなるという悲惨な事故が発生しました。

建設工事の請負会社であった伊藤組の社主、伊藤六右衛門氏は、明治42年7月(1909年7月)、慰霊碑と稲荷神社を建立し、亡くなられた方々の冥福を永遠にお祈りすると共に慰霊を行いました。その後、毎年2月5日を「タンク慰霊祭」と決め、関係者の皆様によって慰霊祭が行われるようになりました。



<伊藤六右衛門氏が建立された慰霊碑と稲荷神社 (撮影 現在)>

時代変遷とともに、いつの頃からか趣が安全祈願に変わりましたが、110年以上も経った今も「命の尊さ」「事故の悲劇さ」「安全の大切さ」を教訓として活かすべく「タンク慰霊祭」を受け継ぎ、多くの関係者の皆様が出席して「安全祈願」を行っています。※稲荷神社は京都伏見稲荷神社より、分霊されております。

<西戸崎油槽所の歴史>

西戸崎製油所は、1915年(大正4年)一端、閉鎖されたそうです。原因は、第一次世界大戦が勃発し、原油の輸入が困難になった事と、アスファルトの大火災が起こり、消火に大変苦勞した為だそうです。その後、1921年(大正10年)旭石油がライジングサンより借り受けて製油所として復活し、大正末期迄稼働したそうです。その後は、油槽所として運営されています。1941年(昭和16年)に日本軍に攝取され、戦後は米軍に1952年(昭和27年)迄、攝取され返還後はシェル石油(株)として運営し、1998年にジャパンオイルネットワーク(株)となりました。

(ジャパンオイルネットワーク(株)福岡油槽所 徳永所長の『「タンク慰霊祭」について』
の資料から転載)



<稲荷神社の鳥居>

<鳥居の寄進>

- 1本目 福岡西戸崎油槽所
- 2本目 流通業務部福岡業務センター
- 3本目 社友会西戸崎班一同
- 4本目 有志一同

<西戸崎油槽所の筆者の思い出>

私が西戸崎油槽所に関わっていたのは小学校3年生までで、その訳は私の親父がシェル石油の従業員で西戸崎油槽所に勤めていたからです。昭和28年1月にオギャーと生まれて9歳まで長屋作りの社宅(現在はジャパンオイルネットワークの福岡油槽所のドラムヤード等)に住んでいました。



<長屋の社宅>

社宅は長屋が二棟あって、我が家は社宅エリアの入口を入って海側の棟の左から4件目、社宅のエリアには共同の水洗い場や共同のお風呂があり、子供たちが遊べるように遊具がある公園やテニスコートが有りました。社宅エリアの入口を出て、海側へ緩やかな坂道を歩いて行くと、左側には税関の宿舎等があり、上り詰めたところには潤滑油等の貨物線があり、今なら絶対にダメですが、線路を伝って遊んでました。線路から海側へ今度はちょっとした坂道になっていて、歩いて行くと博多や金印で有名な志賀島(しかのしま)への渡船場に行きつきます。現在はこの渡船場は JR の西戸崎駅の近くが変わっています。

西戸崎油槽所の構内は広くて、事務所やタンク群の奥にはグラウンドがあり、野球や運動会が出来る広さでした。これも今では絶対にダメですが、この広場で社宅の子供たちで遊んでいた記憶が薄っすらとあります。先程の「タンク慰霊祭」の稲荷神社のあ

る場所も知っておりました。何のお稲荷さんかは知りませんでした。余談ですが、父の転勤で山口県の下関油槽所へ移り住んだ時も、土曜日の午後と日曜日は、構内の棧橋でよく釣りをしていました。スズキ、小ダイ、鯰、カレイ、ワタリガニ等がよく釣れました。ここでも自由に構内に入れましたね。いい時代でしたかね。

話を戻しますと、西戸崎油槽所での9年間は、先程の構内の広場での運動会が凄く印象に残ってます。最初にお菓子の詰め合わせが子供に配られたり、競技に参加するたびに景品が貰えたりしていました。



<構内のグランドで行われた運動会の模様>



<皆でお昼ご飯の風景>



<親父と私>

野球も盛んで、このグランドで大会等が行われていた模様です。



<始球式>



<選手一同>

時期はかなり違いますが、バックネット(ネットは無いですが)の所で取った写真です。



<従業員の写真>



<従業員の子供達>

因みに<従業員の子供達>の写真の座っている子供の右端が筆者です。筆者の思い出の最後は写真はないですが、個人製作のテレビです。我が家にテレビが来たのは結構早かったです。でも、電気屋さんから買ったのではなく、父が仕事の関係で、親しくしていた方かは知りませんが、当時、税関の職員の方が自前で製作したものでした。ですので、故障したら電気屋さんにも直してもらえない事がありました。税関の方(加茂さん?)のスケジュールに合わせて修理をお願いしていたので、長い時は一週間以上もテレビが見れませんでした。これも未だに思い出として残っている西戸崎油槽所の思い出です。

では、最後に記念のパーティーが写っているのが有りましたので、それを紹介して「わたしの西戸崎油槽所の思い出」を終わります。

<シェル石油60周年記念パーティー>



<シェル石油(株)60周年記念パーティーの様子と参加者>

手前味噌で申し訳ないですが、集合写真の後ろの段の左から2番目が私の父です。60周年の時に西戸崎油槽所に居たんですね。

最後に、私が流通業務部の時に、たまたま油槽所や基地の端末の開発を行っていた時に、縁あって現在のジャパンオイルネットワーク(株)福岡油槽所(旧、西戸崎油槽所)へ基地端末のシステムを入れに行くという事で何十年ぶりかで行くことが出来まし

た。久しぶりの西戸崎の町や油槽所の変わりようにびっくりしたり、懐かしんだりでした。父や私にとって本当に切っても切れない思い出の西戸崎油槽所でした。



<現在のジャパンオイルネットワーク㈱福岡油槽所>

今回のこの記事を書くに当たって、出光興産社史・理念研究所の金子様、ジャパンオイルネットワーク㈱福岡油槽所の徳永所長様にはご協力頂きまして大変有難うございました。